令和6年度 児童館年間利用数

井吹西児童館

令和5年度							令和6年度					
学年	学童登録人数	延長保育		18時～19時			学童登録人数	延長保育		18時～19時		
		17時～18時						17時～18時				
1年	63	名	19	名	12	名	60	名	22	名	10	名
2年	40	名	13	名	6	名	65	名	17	名	10	名
3年	42	名	9	名	8	名	39	名	10	名	6	名
4年	21	名	3	名	2	名	39	名	7	名	5	名
5年	12	名	0	名	4	名	8	名	1	名	1	名
6年	4	名	1	名	1	名	4	名	0	名	0	名
合計	182	名	45	名	33	名	215	名	57	名	32	名

自由来館者数													
令和5年度							令和6年度						
幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計	幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計
	1～3	4～6						1～3	4～6				
1501	470	388	53	1377	57	3,846	2415	619	557	102	2305	20	6,018

学童年間利用数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5年度	2588	2416	2550	2514	2163	2331	2154	2149	2157	2040	1859	1895	26816
6年度	3366	2948	3151	3367	2677	2725	2931	2626	2603	2343	2169	2420	33326

ヒヤリハット　A（危険度重）B（危険度中）C（危険度軽）	事故報告　（受診を要した件数）	要望・意見・苦情　報告
A：　2　件　　B：　6　件　　C：　1　件	4　件	要望：　2　件　　意見：　0　件　　苦情：　2　件

方基法針本人	重点目標	計画(P)	実践内容(D)	評価(C)	改善（A）
サービスの質の向上	子育て支援の強化	・チーフアドバイザー常駐をアピールし子育て支援を気軽に行う ・毎日のプログラムを充実させる ・放課後や土曜日、長期休暇に気軽に利用できるよう定期的に案内を行う ・プログラムは、対象年齢をふまえ季節のもの手形足型、フォトブースやねんねアートなど工夫をする ・おでかけギフトのアピールをする ・ひろばを曜日の担当制にし、一つ一つのプログラムを丁寧に企画進行する。	・専門分野の講師（写真家・リトミック・歯科衛生士など）を招く ・人気の手形足型を定期的に行う ・館外プログラムではシャボン玉、パラバルーン、落ち葉拾いなどを行う ・インスタグラム、小学校PTAやすぐーるなどで幅広く広報を行う ・夏休みは児童館を開放しプログラムを実施する。	・サロンや赤ちゃんタイムにはカフェタイムを行い大好評であったので来年度も続けたい ・０．１歳児の利用が多いので手形足形、ねんねアートなど記念に残る製作に力をいれ喜んでもらえた ・インスタフォロワーも増加し掲示版にも工夫を凝らし問い合わせが増えた。引き続きインスタ投稿も行う ・夏休みひろばは大好評であった ・おでかけギフトの来客も多かった	・時代のニーズを把握し、専門家の依頼など気軽に来館できる工夫をする ・インスタやグーグルを活用する ・夏休みの児童館開放を引き続き行う ・すこやかクラブの対象年齢を柔軟にし申し込みしやすい場をする ・定期的に出張児童館、出前保育を行いにこにこ園との連携を行う ・チーフアドバイザーの研修を活かし相談窓口として積極的に関わっていく
	児童育成の拡充	・学童人数の過密化により一般来館が来館しづらくないように集会所を確保したり、工作スペースを作るなど環境づくりを工夫する ・英語や手話、囲碁将棋など普段できない体験の機会をつくる ・職業体験や福祉体験の場を提供する ・中高生の居場所を作り小学生との関わりを楽しめるゲームなどを企画する	・高学年の役割を伝え、イベント企画を一緒に行う ・長期休みには講師を招いたり様々なプログラムを行い幅広い体験をさせる ・放課後や土曜日には、一般来館児の時間も設けバトミントンや卓球など体を動かせる遊びを準備する。 ・ワークキャンプやトライやるでは中高生に自分の居場所であることも伝え今後につなげる	・夏まつり、クリスマス会の企画進行を喜んで進めることができた ・夏休みには小学校内で学童保育を行い、様々な企画を体験できた ・土曜日や長期休みに一般来館が大幅に増えた ・ワークキャンプやトライやるでは親子や小学生に関わりをつことで将来への希望とともに自身の居場所でもあることを伝えることができた ・新しい企画が盛りだくさんであったことで来館者が増加した	・引き続き、いろんなプログラムを企画し児童館がみんなの居場所となるようなポスターづくりやインスタ配信を行う ・夏休みの居場所、おべんとうひろばは毎日開催し小中学生も可能とする ・高学年の学童児が、イベントを企画し実行することで達成感を味わせる ・ワークキャンプやトライやるの内容を充実させるためのマニュアル作成を行う ・全日ひろばのプログラムを企画し、いつ来ても楽しめる児童館として地域に周知できる広報を考える
地域との共生	地域との連携	・地域と協力して街全体の状況を共有する。防災訓練やイベントには参加だけでなく、打ち合わせや準備にも加わり共に地域を支える。 ・小学校の運営協議会に参加し学童児の様子や現状を共有する。また警報時や学級閉鎖時の対応も共有する ・いきいきシニアの募集を行う ・囲碁将棋クラブをたちあげる	・防災訓練、夏休みの居場所、見守り等地域の方と協力し情報共有する ・クリスマス会のサンタ依頼をする ・児童館のイベントに積極的に来ていただき見てもらう機会をもつ ・運営評議会では、小学校や地域と意見交換をし現状を共有する。 ・いきいきシニアの受け入れをする ・引き続き囲碁将棋クラブを行う	・毎月の定例会出席では児童館の情報を共有し、居場所やイベントの協力体制がとれている ・イベントに参加していただくことで域と児童（保護者）をつなぐ ・小学校との連携もうまくとれている ・いきいきシニアは6人の登録がある ・囲碁将棋クラブは地域に広がり幼児と父親の参加もある	・毎月の定例会で、書記をうけおいさらなる協力をする ・防災イベントの協力をする ・地域のイベントには積極的に参加しまた児童館のイベントにも来ていただく ・囲碁将棋クラブを立ち上げ、地域と児童の関わりを増やす。 ・いきいきシニアの登録数を増やす
	年間利用数	・放課後児童クラブ年間利用者予定数（30,000名） ・自由来館年間利用者予定数（5,000名）	・放課後児童クラブ年間利用者数（33,326名） ・自由来館年間利用者数（6,018名）	・放課後児童クラブの登録児童数は増加している。コーナーも1部屋増えた ・年間利用者数は夏休み学童と夏休み開放を積極的に行ったため増加した ・午前中の利用者数は少子化と働く母親の増加により減っている ・小中学生の放課後利用者が増加した	・放課後児童クラブの様子をインスタグラムに公開し、保護者に児童館での様子を知ってもらう ・復職する前の親子を対象としたプログラムを強化する ・「屋根のある公園」を全面的にアピールし幼稚園児親子の敷居を低くする